

イフジ産業の鶏卵相場予想

2021年 11月 の鶏卵相場予想

215円

(全農東京相場LM加重平均)

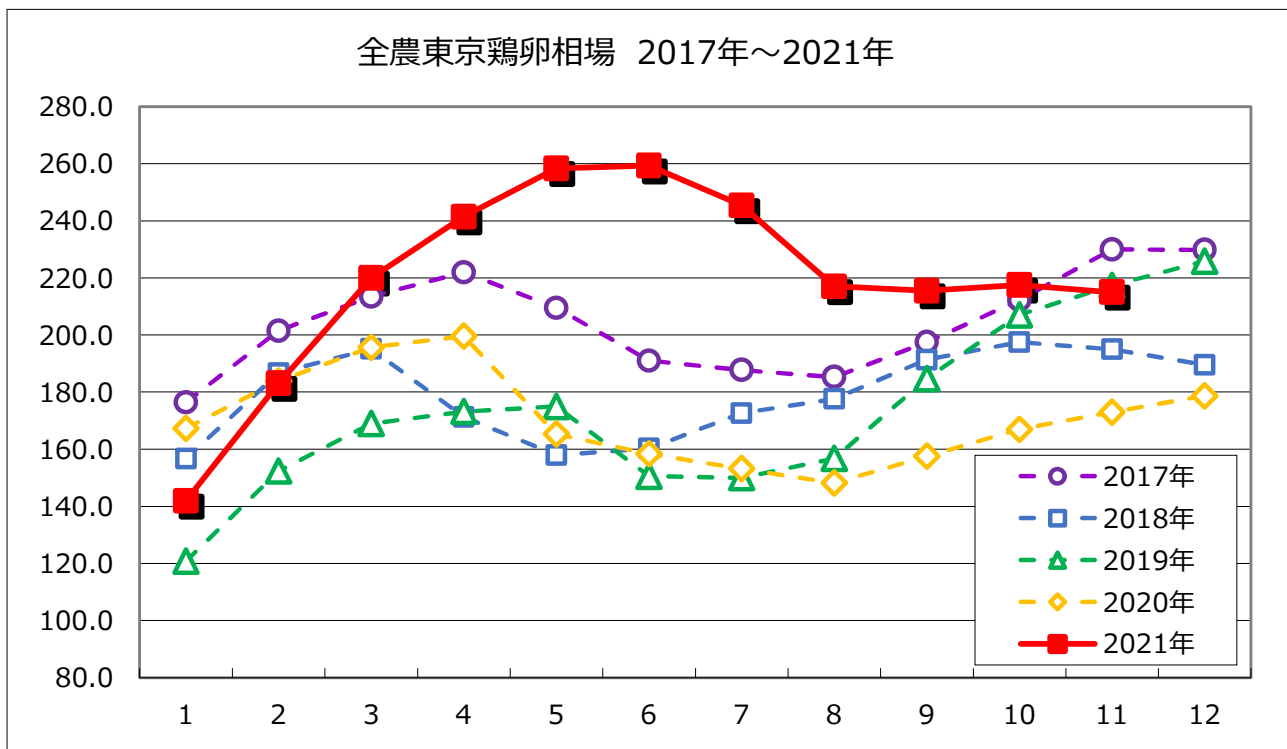
10月の相場ですが、9月最終値であったLサイズ225円・Mサイズ220円でスタートしました。その後、10月14日にL・Mサイズともに10円下落し、25日にも両サイズ5円下がりました。(令和3年10月25日時点のLM加重平均は207.5円)

供給面では、生産は堅調に推移しており、鳥インフルエンザからの回復の兆しを感じられるようになってきました。外気温の低下に伴い大玉が増加傾向となっています。需要面では、緊急事態宣言が解除されたことで、巣ごもり需要が減少しテーブルエッグの荷動きは鈍化したように感じられます。逆に業務筋は、特に外食の営業時間拡大や提供規制の解除によって活発化してくると予想しましたが、直接的な卵の消費にはつながってはいないように思います。また、観光・行楽需要も元の水準にまで戻っておらず、土産菓子関係など、加工筋の動きも鈍いように見受けられます。先の要因により10月の相場は一時的に下落したものと思われる。10月の月間LM加重平均は217.50円(令和3年10月25日までの平均値)

さて、11月の相場予想ですが、供給面では10月と同様に気温も涼しい環境下となったため、引き続き中玉・大玉中心の生産となり、鳥インフルエンザの回復も進んでいくと思われるため、堅調に推移することが予想されます。一方の需要面ですが、外食ではG o T o イートの再開や、25日から時短営業解除(認証店)となるため、徐々に回復していくと考えられます。また、未確定ではありますが、経済回復を狙いG o T o トラベルも再開検討されている状況です。年末商戦に向けて各企業も動いていくと思われるため、加工筋の動きも活発化していくと予想します。よって、11月は前半が保合傾向で、月後半ごろから強含みの展開となることを予想いたします。

懸念事項として、11月からは鳥インフルエンザの季節となりますが、再び蔓延することになれば、状況は一変し、相場高騰や供給不足が発生する可能性は充分に考えられます。今後も、鳥インフルエンザ発生の有無や人の動きによって、需要・供給の推移は変化するため、不透明な状況が続きます。

11月の月間LM加重平均は215円付近と予想いたします。



※2021年10月の相場は10月25日までの平均値。11月は予想値。

※予想は当社独自のものであり、あくまで予想です。

※この情報に関するお問い合わせ等はご遠慮ください。

Egg ×
Something =

「タマゴテック」でライフスタイルの殻を破る

